

# 東日本大震災 ニュース

発行：東京民医連事務局

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：[sien@tokyominiren.gr.jp](mailto:sien@tokyominiren.gr.jp)

## 東京の被災者避難所の実態をつかみ必要な支援を！

この間各自治体においても被災者の受入れがはじまっています。先日は東京都の避難所を訪問した東都協議会などのレポートを紹介しましたが、市区レベルでの受入れも進んでいますので、ぜひ各事業所所在自治体の避難所の実態をつかみ情報を発信してください。

各自治体の避難所情報は「みんなでつくる震災被災者支援情報サイト」

<http://sites.google.com/site/minnadewiki/home/kihon/accept>でご確認ください。

## ひきつづき被災地支援をひろげ 送り出す職場も守ろう！

**健友会** 帰任した第1次医療支援チームが23日、共立事業所の職員を前に現地支援の報告会を開催しました。

伊藤副理事長は「長期の支援になる。多くの医療チームを送りだし、自分達の職場も守ろう」とまとめました。

以下支援チーム参加者のレポートです。

災害時に救命の順序を決めるトリアージ外来は1日約300人、急性期から慢性期医療に落ち着きつつありました。災害直後はオーバーベットで392床を用意し最大限被災者を受け入れていました。産婦人科も動いていて私たちがいる間にも出産がありました。

私は1日中 雪が降る中外来に来る車の整理案内、トリアージなどを担当しました。ガソリンを節約するために避難所から4、5人乗り合わせてくるケースも多くありました。病院周辺の塩釜市多賀城市には30か所近い避難所がありました。近くの500床の病院が100床程度しか機能していないこともあり、引き続き地域の中核的役割を果たしながら今後は避難所・在宅への医療支援が大きな課題だと感じました。(鈴木博徳さん・健友会総務部長)



外来トリアージの様子

私は17日トリアージ外来「緑ブース」を担当しました。診療開始前から列ができており、子どもを抱いたお母さんの姿も多く、発熱風邪症状を訴えていました。



避難所訪問へ徒歩で向かうスタッフ

18日19日は長町病院へ支援に入りました。リハ室に「避難所」を作り、長町病院や坂病院から退院しても自宅に戻れない人、避難所から来た人の計11人を受け入れました。阪神淡路大震災を経験した東神戸病院の看護師が采配をふるっていました。私は当直にも入りました。

リハ室の「避難所」に来た在宅酸素が必要な80代女性は入院中に地震に遭遇。家は流されてしまい息子さんとは連絡が取れないそうです。

糖尿病で精神疾患がある50代の男性は倒壊寸前の団地で発見されました。訪問した看護師が避難所で高血糖の症状を見つけこの「避難所」に来たということでした。(原由絵さん・中野共立病院副総師長) [健友会組織部ニュースより]

## ポータブルユニットを長町歯科へ提供 【みさと健和歯科】

現地宮城民医連の「災害対策ニュース」の不足物品リストを見た土田所長が「被災地へ贈ろう！」と管理会議で提案。健和会第3次支援隊に託し26日長町歯科へ持っていくことになりました。